

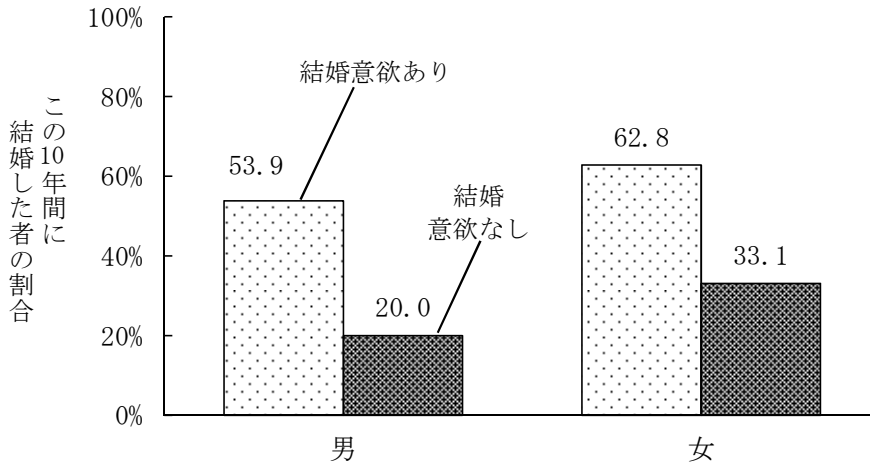
結果の概要

1 独身者の結婚意欲

結婚意欲がある独身男女は、結婚意欲がない者に比べ、結婚した割合が高い
20代独身女性の結婚意欲は、10年前に比べ正規・非正規ともに増加

14年調査における第1回の独身者の結婚意欲別に、この10年間に結婚した割合を性別にみると、男女ともに第1回調査時に「結婚意欲あり」と回答した者は、「結婚意欲なし」と回答した者に比べ、結婚した割合が高くなっている。(図1)

図1 第1回調査時に20代独身だった者の性、結婚意欲別にみたこの10年間に結婚した者の割合【14年調査(第11回)】

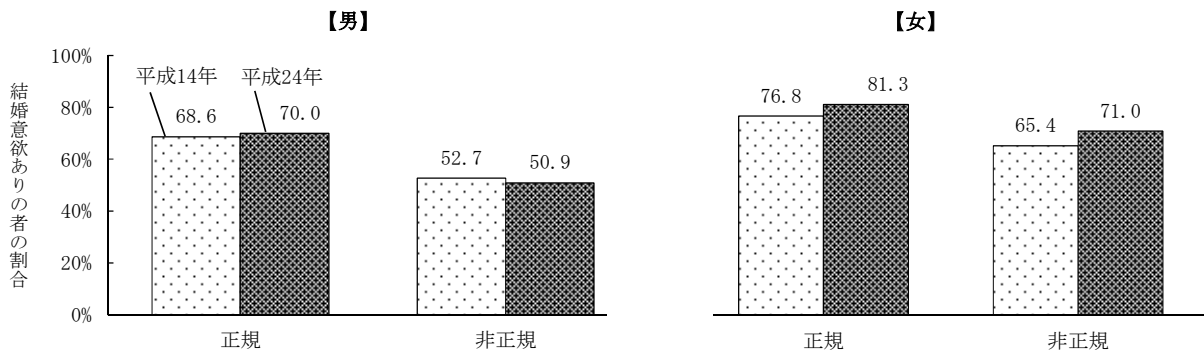


注：1)集計対象は、9頁「参考」1(1)①を参照。

2)「結婚意欲あり」は「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を、「結婚意欲なし」は「あまりしたくない」「絶対したくない」と回答した者を合計している。

14年調査と24年調査の第1回調査において、独身男女の結婚意欲がある者の割合を性、正規・非正規別にみると、10年前に比べ女性は「正規」「非正規」とともに増加している。(図2)

図2 性、正規・非正規別にみた20代独身者の結婚意欲ありの者の割合【14年調査(第1回)・24年調査(第1回)】



注：1)集計対象は、9頁「参考」1(1)②及び(2)を参照。

2)「結婚意欲あり」は「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を合計している。

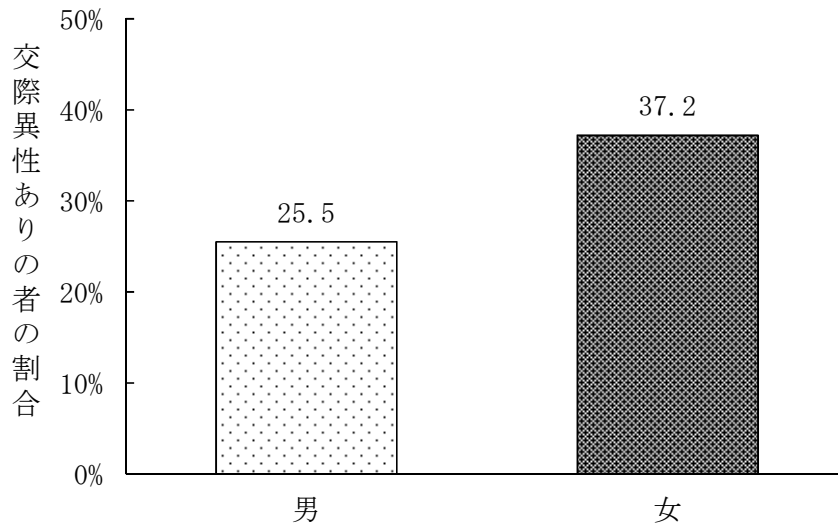
2 独身者の交際状況

20代独身の交際異性ありは、女性で37.2%、男性で25.5%

正規・非正規別にみると、男女とも、正規で交際異性ありの者の割合が高い

24年調査の第1回調査において、独身男女の交際異性の有無を性別にみると、男性に比べ女性の「交際異性あり」と回答した者の割合が高くなっている。(図3)

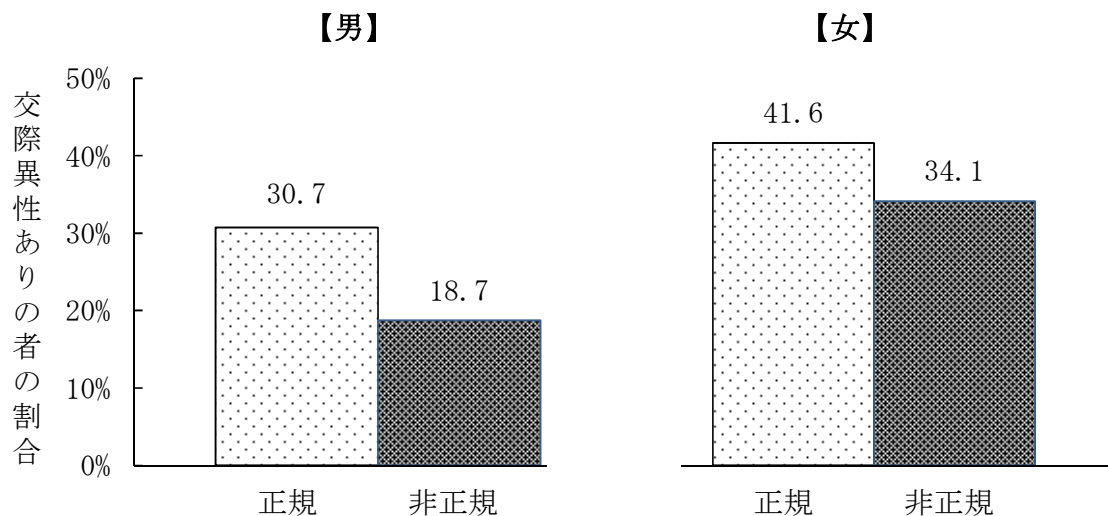
図3 性別にみた20代独身者の交際異性ありの者の割合【24年調査(第1回)】



注：集計対象は、9頁「参考」1(2)を参照。

これを、就業形態の正規・非正規別にみると、男女とも、「正規」は「非正規」の者に比べ、「交際異性あり」と回答した者の割合が高くなっている。(図4)

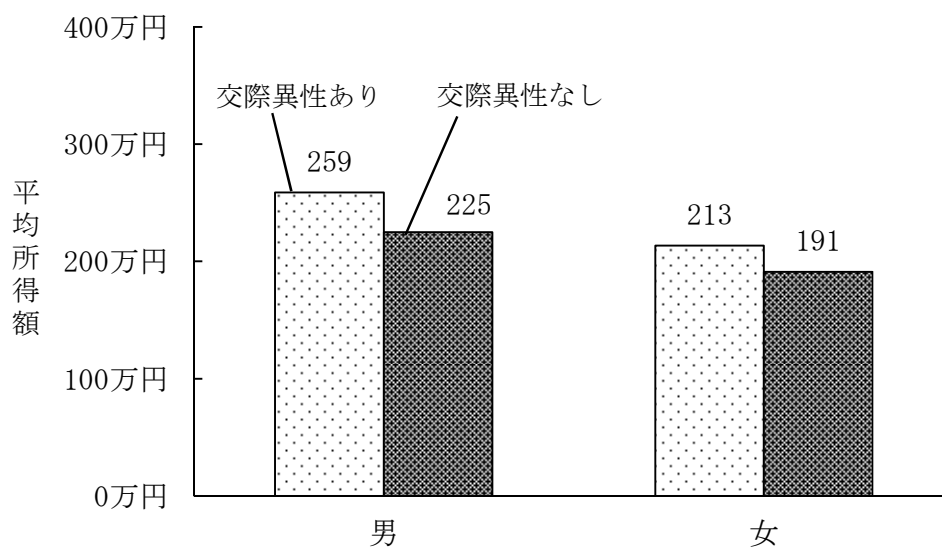
図4 性、正規・非正規別にみた20代独身者の交際異性ありの者の割合【24年調査(第1回)】



注：集計対象は、9頁「参考」1(2)を参照。

性別に、所得ありの者の所得の状況をみると、男女とも、「交際異性あり」の者は「交際異性なし」の者に比べ、平均所得が高くなっている。(図5)

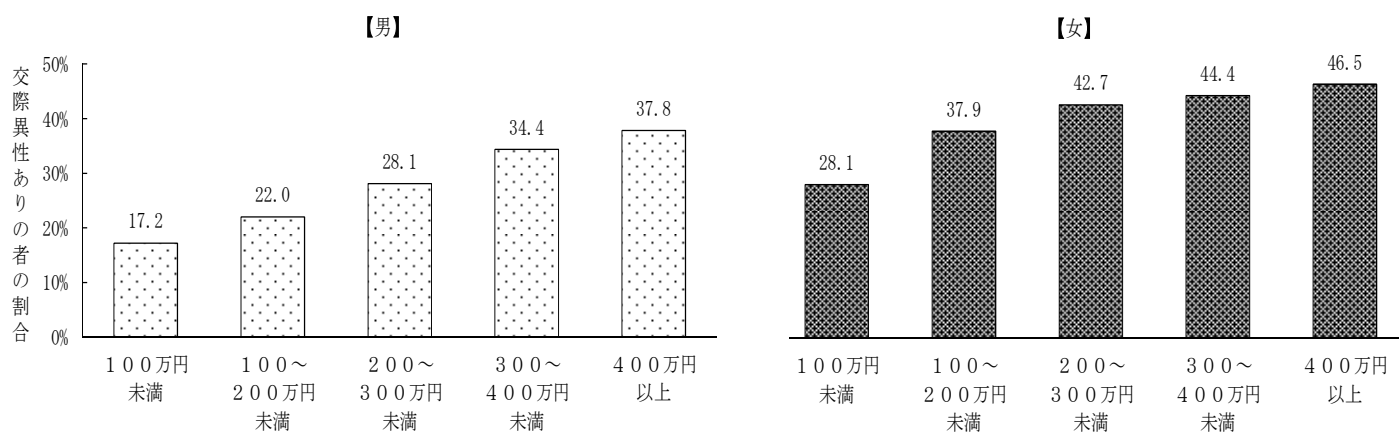
図5 性、交際の有無別にみた20代独身者の所得ありの者の平均所得額
【24年調査(第1回)】



注：集計対象は、9頁「参考」1(2)を参照。

性別に、所得ありの者について、所得階級別にみると、男女とも、所得が高くなるほど、「交際異性あり」の者の割合が高くなっている。(図6)

図6 性、所得階級別にみた20代独身者の交際異性ありの者の割合
【24年調査(第1回)】



注：集計対象は、9頁「参考」1(2)を参照。

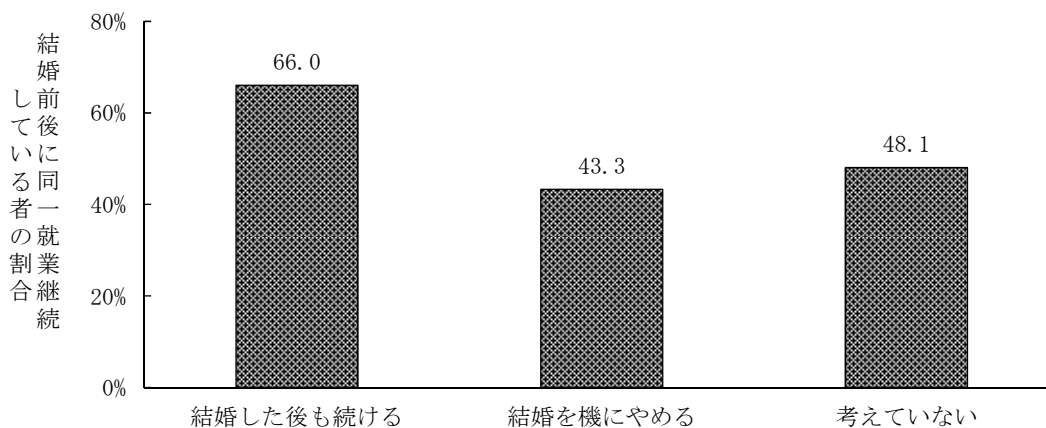
3 独身女性の結婚後の就業継続意欲

結婚後も就業継続をしようと答えた独身女性は、結婚を機にやめるなどと答えた者に比べ、結婚前後で同一就業継続している割合が高い

20代独身女性の結婚後の就業継続意欲は、10年前に比べ正規では「結婚を機にやめる」が減少、「考えていない」が増加し、非正規では「結婚した後も続ける」が減少

14年調査における第1回の独身女性の結婚後の就業継続意欲別に、この10年間に結婚し、結婚前に仕事をしてきた女性について結婚前後の同一就業継続の状況をみると、「結婚した後も続ける」と回答した者の結婚前後の就業継続の割合が最も高くなっている。(図7)

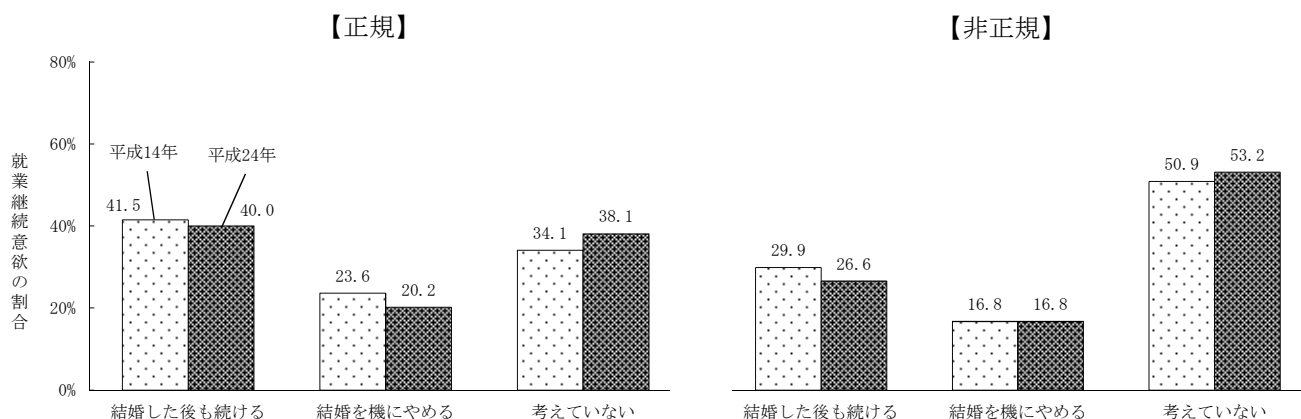
図7 第1回調査時に20代独身女性だった者の結婚後の就業継続意欲別にみたこの10年間の結婚前後に同一就業継続している者の状況【14年調査(第11回)】



注：集計対象は、9頁「参考」1(1)①を参照。

14年調査と24年調査の第1回調査において、独身女性の結婚後の就業継続意欲の状況を正規・非正規別にみると、10年前に比べ「正規」では「結婚を機にやめる」が減少、「考えていない」が増加し、「非正規」では「結婚した後も続ける」が減少している。(図8)

図8 正規・非正規別にみた20代独身女性の結婚後の就業継続意欲別の状況【14年調査(第1回)・24年調査(第1回)】



注：集計対象は、9頁「参考」1(1)②及び(2)を参照。